

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年3月31日現在

機関番号：14602

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720069

研究課題名（和文） 中世から近世における『西行物語』の展開—和歌の異同を中心に—

研究課題名（英文） Development of the various manuscript versions of "Saigyō Monogatari" from the Middle Ages to the early modern times. Mainly on the difference of the words and phrases of Waka (31-syllable Japanese poems).

研究代表者 礪波 美和子 (TONAMI MIWAKO)

奈良女子大学・大学院人間文化研究科・助教

研究者番号：80324961

研究成果の概要（和文）：『西行物語』諸本に出てくる294首の和歌の諸本における語句の異同を精査し直し、『新編国歌大観』・『新編私家集大成』CD-ROMを活用し、それぞれの和歌がどの歌集にどのような形で出ているか調べ、データベース化した。収集した諸本を元に『西行物語』に出てくる和歌の語句の異同をデータベース化し、『西行物語』の諸本毎にどの歌集から取られたものといえるか、どの本の影響を受けているかについて検討した。

研究成果の概要（英文）：I rescrutinized the difference of the words and phrases of 294 Waka (31-syllable Japanese poems) in the various manuscript versions of "Saigyō Monogatari". I investigated in what kind of form each Waka would have appeared in which anthology. And then I created the database.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	100,000	30,000	130,000
2011年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
総計	800,000	240,000	1040,000

研究分野：中世文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：西行、西行物語、和歌、データベース

1. 研究開始当初の背景

私は、修士論文『西行物語』考以来、十数年に渡って『西行物語』諸本の研究に取り組んできた。2003年度から2004年度にかけては科学研究費補助金若手研究(B)の交付を得、購入したスキャンニングシステムを利用して、画像を一行ずつに切り取り、データベースソフトの「桐」を用いて、翻刻データとともにデータベースを作成した。このデー

タベースを利用して、仮名文字遣の観点から、伝阿仏尼筆本『西行物語』に検討を加えた。

まず、安田章氏（「仮名文字遣序」『国語国文』40—2 1971年2月等）・長谷川千秋氏（「直音と拗音を書き分ける仮名文字遣」『国語国文』66—7 1997年10月・「撥音・促音の混用表記に関する一考察—天正狂言本を中心に—」『叙説』1994年12月等）・今野真二氏（『仮名表記論攷』）の論考を参考に、同一字母のものも、字形の違いによりできるだ

け区別し、伝阿仏尼筆『西行物語』と伝阿仏尼筆と伝わる古筆切で影印の手に入った 38 種についてデータベース化した。これらのデータベースを利用して、全文字数、仮名数及び各字母数を調査した。

次に『西行物語』諸本のデータベースを作成して調査し、字母使用の特徴を把握、静嘉堂文庫蔵伝阿仏尼筆本の書写年代も、従来考えられてきた鎌倉初中期の写よりも時代の下るものとの結論に達した。これらの成果を含め、博士論文『『西行物語』の展開の諸相』にまとめ、2004 年に博士（文学）を取得した。

『西行物語』は、多種多様な伝本を有する作品で、一律に単に『西行物語』として論じることのできない作品である。しかし、現在の研究では、最も分量が多く、最多の和歌を含み、しかも書写年代のはっきりしている文明 12(1480)年奥書本のみを取り上げて論じられることが多く、さらに、他の伝本と混同して論じられることも多い。また、従来、書写年代が最も古いと考えられてきた静嘉堂文庫蔵伝阿仏尼筆本は省略本と考えられる本であるという問題もある。

私は、『西行物語』の多種多様な伝本を分類するために、『西行物語』において含まれる内容の差が含まれる和歌の差にあらわれていることに着目し、諸本分類に際しては、和歌の異同を重要な手がかりとした。まず、諸本毎に出てくる順に和歌に番号をふし、諸本の異同を比較するために通し番号をふした。その際『西行物語』から抄出した歌集とされる七家和歌集本『西行山家集』も参考のため加え、語句の異同多き和歌も同一のものとして扱った（『『西行物語』諸本について』『人間文化研究科年報』第 11 号 1996 年 3 月）。

しかし、同一のものとして扱った和歌の中には、通し番号 12 歌のように、

ほとゝきすたかきみねより出にけりと
山のすそにこゑのきこゆる

(A 2 伝阿仏尼本 9 歌)

時鳥深き峯より出にけり外山の末に声
の聞こゆる

(B 2 白描絵巻 11 歌)

ほとゝきすふかきみねよりいてにけり
と山のすそにこゑのおちくる

(B 3 文明本 11 歌)

いでイ へ

郭公深き嶺よりおちにけり外山のすそ
おちくイ

に声の聞こゆる(D 2 西行絵詞慶大本 8 歌)

と、多くの語句の異同を含む和歌の他、通し番号 149 歌のように、

ゑはまとふくすのしけみにつまこめてと
かみかはらにおしかなくなり

(A 2 伝阿仏尼本 48 歌)

江はまどふ葛の茂みに妻こめて十神が原
小鹿鳴成

(A 4 お茶の水本 57 歌)

えはまがふ葛の茂みに妻籠てとがみが原
にをじか鳴也 (A 4 神宮文庫本 62 歌)
しはさたつ葛の茂みに妻籠めて砥上が原
に小鹿鳴くなり (B 2 白描絵巻 104 歌)
しか松のかすのしけみにつみこめてと
かみ河原におしかなくなり

(B 3 文明本 106 歌)

と、句ごと違うものも多く含まれている。

『西行物語』諸本間の和歌の語句の異同には、分類毎に分かれるものがあり、又、西行の和歌自体、定家の和歌などと違い、歌集においても諸本間の語句のゆれ・異同が激しいということが知られている。そのため、『西行物語』諸本それぞれにおける和歌の語句の異同を、歌集の語句の異同と照らし合わせるにより、どの歌集からとられたものであるか考察できる可能性があることを認識しつつも、ずっと今後の課題としてきた。

博士論文作成の際には、煩雑になるのを覚悟の上で主な諸本の和歌の語句の異同を 16 頁にわたる「表二」の形で掲出したが、どの歌集からかという検討まではできなかった。

2008 年 7 月に平安京文化研究会で『『西行物語』諸本論再考』という発表をした折にも、「同一のものとして扱ってもよいのか」、「どの歌集からか特定できないのか」という質問を受けた。そのため、和歌の語句の異同に関して、どうにか検討しようと考えていた折、2008 年 12 月に『新編私家集大成』の CD-ROM 版が刊行予定であることを知った。

刊行案内によると、書籍版の『私家集大成』刊行から 30 年ほどを経て、その間の私家集研究はめざましいものがあり、本文研究、注釈、内容研究、どの面をとっても刊行当初から隔世の感があるため、CD 化に際しては、冷泉家時雨亭文庫をはじめとする、その後の新出資料の扱いを検討し、基本的な事項はそのままに、旧底本の明らかな親本と思われるものについては本文そのものを差し替えたところ。

新しい研究成果を踏まえた『新編私家集大成』の CD-ROM 化により、すでに刊行されている『新編国歌大観』の CD-ROM とあわせて活用することにより、『西行物語』諸本に出てくる 294 首の和歌の語句の異同のデータベースを効率的に作成できると考えられる。

2. 研究の目的

『西行物語』諸本間の和歌の語句の異同には、分類毎に分かれるものがある。又、西行の和歌自体、諸本間のゆれ・異同が激しいことが知られている。そのため、『西行物語』諸本と歌集の語句の異同を照らし合わせるにより、どの歌集からとられたものであ

るか考察できる可能性が高い。

2008年12月に待望の『新編私家集大成』CD-ROM版が刊行された。書籍版の『私家集大成』刊行から30年ほどの私家集研究の成果が加えられたものである。新しい研究成果を踏まえたこの『新編私家集大成』のCD-ROMと、1996年にCD-ROM化され、2003年には改良版が出版された『新編国歌大観』とを併せて活用することにより、『西行物語』諸本に出てくる294首の和歌の語句の異同のデータベースを効率的に作成することができると考えられる。

3. 研究の方法

博士論文『西行物語』の展開の諸相』においては、同一のものとして扱った『西行物語』諸本中の和歌の語句の異同を、歌集の語句の異同と照らし合わせることにより、どの歌集から取ったものであるか、もしくは、どの本の影響を受けているかということ考察し、『西行物語』諸本の展開について、さらなる検討を加える。

西行の歌集の諸本の影印を収集し、西行の和歌に関しては、寺澤行忠編著『山家集の校本と研究』(笠間叢書255、1993年笠間書院)・寺澤行忠編著『西行集の校本と研究』(笠間叢書359、2005年笠間書院)・同じく寺澤行忠による「御裳濯河歌合・宮河歌合伝本考」(『慶応義塾大学日吉紀要(人文科学)』1号、1986年3月)を手がかりに、出来る限り諸本の影印を収集し、歌集の諸本毎の『西行物語』に出てくる和歌の語句の異同をデータベース化する。

次に、『西行物語』に出てくる西行以外の歌人の和歌に関して、それぞれの歌集の諸本の影印を出来る限り収集し、諸本毎の『西行物語』に出てくる和歌の語句の異同をデータベース化する。

また、『新古今和歌集』入集歌に関しては、諸本毎の和歌の語句の異同をデータベース化するとともに、隠岐に流された後鳥羽院による除棄歌であるか否かによるなんらかの差があるかについても検討を加えたい。

最後に、作成したデータベースを元に、それぞれの和歌がどの歌集からとられたものであるかを検討し、『西行物語』諸本毎に、どの歌集からとられたものといえるかどうか検討する。

4. 研究成果

本研究は、博士論文『西行物語』の展開の諸相』においては、同一のものとして扱った『西行物語』諸本中の和歌の語句の異同を、

歌集の語句の異同と照らし合わせることにより、どの歌集から取ったものであるか、もしくは、どの本の影響を受けているかということ考察し、『西行物語』諸本の展開についてさらなる検討を加えたものである。

まず、『西行物語』諸本に出てくる294首の和歌の諸本における語句の異同を精査し直して、データベースを作成した。次に新しい研究成果を踏まえ、2008年12月に刊行された『新編私家集大成』CD-ROMと1996年にCD-ROM化され2003年に改良版が出版された『新編国歌大観』のCD-ROMを活用し、それぞれの和歌がどの歌集にどのような形で出ているか調べ、データベースを作成した。

西行の和歌に関しては、新たに『西行法師家集』(石川県凶李花亭)・『西行上人集』(石川県凶李花亭)・『西行山家集』(東奥義塾高)・『山家集』(肥前松平文庫)・『山家和歌集』(芸大脇本)・『六家集』(熊大附)の影印を収集した。

西行の和歌に関して、寺澤行忠編著『山家集の校本と研究』(笠間叢書255、1993年笠間書院)・寺澤行忠編著『西行集の校本と研究』(笠間叢書359、2005年笠間書院)・寺澤行忠による「御裳濯河歌合・宮河歌合伝本考」(『慶応義塾大学日吉紀要(人文科学)』1号、1986年3月)を手がかりに、出来る限り諸本の影印を収集し、収集した諸本を元に『西行物語』に出てくる和歌の語句の異同をデータベース化した。

最後に、データベースを元に、『西行物語』の諸本毎にどの歌集から取られたものといえるか、どの本の影響を受けているかについて検討した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

① 礪波美和子、【分野別西行研究史概観】『西行物語絵巻』研究史概観、『西行学』、査読無、第二号、2011、187~192

掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし・URLなし

② 礪波美和子、西行歌の風体一平懐の体をめぐって一、『国文学解釈と鑑賞』、査読無、76巻3号、2011、132~141

掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし・URLなし

③礪波美和子、高濱虚子・横光利一らの洋上句会—宮崎市定のサイン帳と『楠窓を偲ぶ』を中心に—、『叙説』、査読有、38号、2011、152～171

http://nwudir.lib.nara-wu.ac.jp/dspace/bitstream/10935/2847/1/AN00118540_v38_pp152-171.pdf

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計0件）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

礪波 美和子 (TONAMI MIWAKO)

奈良女子大学・大学院人間文化研究科・助教
研究者番号：80324961